

『真の友』

宮崎県

朱雀館道場

中学2年生

上米良

凜

皆さんには、真の友達はいますか？私は、小学校の頃何気なく話していた友達が、今ではそういう存在になっています。

彼女は幼い頃から空手を習っていたのですが、私はある日剣道に誘いました。最初は断われましたが、剣道の魅力や楽しさなどを話したら剣道を始めようと決心したそうです。しかし、私とは違う道場に入ったため、一緒に剣道をすることはありませんでした。

彼女と始めて公式戦をしたのは小六の夏。彼女は剣道を始めてまだ一年くらいだったので、私は負けられないというプレッシャーがありました。しかしそのプレッシャーに負けてしまい、一本負けをしました。試合終了のブザーが鳴った瞬間、涙があふれてきました。その時は悔しいというより情けないという気持ちの方が強かったです。

私は中学にあがっても道場に通い、部活はもちろん剣道部に入りました。彼女も同じ中学校で、剣道部。それから毎日一緒に登校するようになりました。片道約30分、たくさんの事を話しながら登校し、学校についたらまず剣道場を掃除します。たまには昼休みに二人で掃除することもあります。話もせず掃除して、終わって静かに床に座っていても、この沈黙が心地よかったです。また、朝から道場を掃除すると心がスッキリして勉強にも取り組みます。そして夕方の部活が終われば、それぞれの道場へ行きますが、彼女は部活では一緒にきつい稽古を耐えている大切な友人です。

中学二年になって、ある試合に道場から出させてもらうことになった時の事です。道場からなので彼女とは別の団体。お互いが順調に勝ち進めばあたる…という組み合わせでした。その試合は、珍しく、私は先鋒だったので、私と彼女が対戦する事になります。私の嫌な予感は的中し、彼女との二度目の公式戦が始まりました。私は六年の頃の様な情けない思いをしたくない、絶対に勝ちたいと試合前の心の中は渦まいていましたが、いざとなると迷いは消え、無心で飛び込んでいました。無我夢中の試合が終わると、私の一本勝ちで彼女との二度目の公式戦は幕を閉じました。試合の後、彼女に「次は絶対負けんよ。」と言われ、涙があふれました。私には、切磋琢磨し合える大切な仲間がいると思ったからです。一勝一敗。これからも彼女と真剣勝負がしたいと心から思いました。

また、最近になって、彼女が勉強を教えてほしいと言ってきました。今まで剣道一筋だった彼女が!?!と耳を疑いましたが、正直とても嬉しかったです。剣道だけでなく勉強も一緒に頑張れると思ったからです。私には剣道で培った集中力と根性、そして何より志が一緒の友がいます。土日は部活の後、皆が嫌がる中、彼女だけランニングにつきあってくれます。一緒に正々堂々と、剣道も勉強も逃げずに努力する友達がいてくれるのでつらい事があっても頑張れているのです。

そして部活が終わり道場へ行けば、素晴らしい先生、先輩、仲間がいます。一人一人が大切な存在です。それはお金では買えない宝物。このような宝物を与えてくれる剣道に心から感謝しています。私を楽な方へ、そして都合のいい事だけを言うのではなく、間違いも正してくれて、嫌な事も本気で真正面からぶつかれる友は、そういません。いつもは言わないけど、本当にありがとう。

これからも苦しくて逃げたくなったり、悔しくて何もかも嫌になる事もあるかもしれませんが、でも一緒に乗り

越えていける、努力する事がかっこ悪いと思わない友達があります。私はそんな友と剣道を、これからも大切にしていきたいと思います。